



〈公開〉語られる生と死

死生学研究

東洋英和女学院大学

<http://www.toyoeiwa.ac.jp/daigaku/index.html>

東洋英和女学院大学院

<http://www.toyoeiwa.ac.jp/daigakuin/daigakuin.html>

□会場 東洋英和女学院大学大学院
(六本木校) 201教室
東京都港区六本木5-14-40

□最寄駅 六本木駅(日比谷線 徒歩10分)
麻布十番駅(大江戸線 徒歩5分)
(南北線 徒歩7分)

□参加費無料・申込み不要

□当日先着順100名様

第1回公開研究会 小谷みどり

東洋英和女学院大学大学院博士後期課程
第一生命経済研究所主任研究員

5月19日(土)

14:30-16:00

■プロフィール

奈良女子大学大学院修了。専門は生活設計論、余暇論、葬送問題。「葬送NOW」(北海道新聞)、「数字が示す女性像」(産経新聞・大阪本社版)を連載中。東北公益文科大学大学院非常勤講師。

■著書

『変わるお葬式、消えるお墓』岩波書店 2006年
『こんな風に逝きたい』講談社 2003年
『おとむらい新世紀』東京新聞出版局 2000年

現代葬送事情

内容紹介： 家族のありかたや人生の価値観も多様化している昨今、お葬式やお墓をどうするのか、死後をだれに託すのかという問題が様変わりしています。子どもに迷惑をかけたくない、自分らしいお別れをしたいという思いをもつ人たちも増え、故人のしのび方も多様化しています。しかし、日本の墓地制度は子々孫々での継承を前提としているなど、必ずしも現代社会にあったあり方とはいえない状況があります。今回は、日本だけでなく諸外国におけるお墓をめぐる問題も紹介しながら、多様化するお墓や葬儀の現状を解説したいと思います。

第1回連続講座 高宮有介

昭和大学医学部専任講師

5月19日(土)

16:30-18:00

■プロフィール

英国ホスピス研修の経験を経て、日本のがん末期患者の緩和ケアに取り組むバイオニア。昭和大学横浜市北部病院緩和ケア病棟医長を務め、現在は医学部教育推進室に所属し、医学生、看護学生の卒前教育、医療者の卒後教育を行う。「日本ホスピス緩和ケア協会」理事。「大学病院の緩和ケアを考える会」代表世話人。「日本死の臨床研究会」常任世話人。雑誌『緩和ケア』編集委員。

■著書

『肺がんーあなたの家族が病気になるたときに読む本』(共著)講談社 2006年
『臨末緩和ケア』(共著)青海社 2004年

いのちの講座

ー患者さんの死から、生といのちを学ぶー

内容紹介： 私は緩和ケアを専門とする医師です。多くのがん患者さんとの関わりと死から、生といのちの意味や大切さを教えられます。母に遺書を書き残した21歳の女性、日記に生きる意味を綴った脳腫瘍の高校生、死の数ヶ月前に結婚式を挙げられた乳がんの女性、生まれたと同時に死にいたる胎児を抱えた26歳の妊婦さん、骨転移のため下半身麻痺になり排泄を看護師に委ねる中で生きている意味を苦悩する50歳代の男性など、実際にお会いした患者さんを通して、皆さんと一緒に、生きる意味やいのちについて、考えていきたいと思います。講義の中で、人生の中で大切にしている希望について、皆さん自身で問い直すワークも準備しています。また、ビデオや音楽を使い、皆さんが癒される時間も持ちたいと考えています。

第2回連続講座 6月2日(土) 15:00-16:30

橋本洋子 山王教育研究所、臨床心理士
「誕生と死のはざまー周産期センターでのこころの臨床ー」

第3回連続講座 6月16日(土) 16:30-18:00

玉井義臣 あしなが育英会会長
「親を亡くした子らの生活史」

❀お問合せ先

東洋英和女学院大学死生学研究所
shiseigaku@toyoeiwa.ac.jp
03-3583-4035 (fax専用)